

令和7年度 府中市立住吉小学校学校経営報告

府中市立住吉小学校
校長 木下 和紀

本校は、第3次府中市学校教育プランに基づき、「他者も自分も大切にする、思いやりと規範意識のある人」「社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献しようとする人」「自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人」の育成を目指し、「学力の向上」「安心・安全な学校づくり」を重点課題とし、「府中型コミュニティスクール」「小中連携」など地域連携協働の取組を通して、その解決に当たることを経営方針としてきた。今年度は、校内研究としての取組を取り入れたり、幼保小連携の推進を図ったり、いじめの未然防止、早期発見についての組織的な対応を充実させるなどを行ってきた。以下は、今年度の各取組と保護者アンケートの結果、それをもとにしたスクールコミュニティ協議会委員による評価、さらに令和9年度に向けた方策を示す。

1 今年度の主な取り組みと保護者アンケート及び教員アンケートの結果、スクールコミュニティ協議会委員による評価

(1) 学力・体力の向上

①基礎・基本の定着

- ・ベーシックドリルタイム（BDT）の定期的な実施。年間16回。
- ・地域と連携して放課後算数教室による補習、やり直し学習の実施。年間19回。
- ・家庭学習の充実として「住吉スタディータイム」（低学年 10～20分間、中学年 20～30分間、高学年 30～40分間）の実施。
- ・タブレットの毎日持ち帰りによる、家庭でのEラーニングの実施。
- ・1年生を対象に読みの力の向上のための取組
- ・校内表示の工夫（九九、英単語 等）

②教師の授業力の向上

- ・校内研究において「児童が意欲をもって取り組む授業作り」について研究。
- ・授業評価（年間3回指導略案、授業公開）の実施。管理職による指導の実施。
- ・若手教員研修（4年次まで）の実施。年間4回の実施。
- ・タブレットの効果的な活用のための研修の実施。年間2回実施。

③学校全体の体力づくりを推進

- ・持久走旬間の実施
- ・年間を通しての縄跳び集会の実施
- ・様々な種目の外部講師を招聘し、運動への意欲を高める機運を醸成
- ・青少対主催行事「ちびっ子相撲」に向けての練習

- 1 学校は個に応じた指導や基礎・基本の徹底等、学力の向上のための工夫・改善に努め、楽しい授業をしている。（習熟度別指導、放課後算数教室、BDT、通級指導、学習支援員の活用 など）

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）89%】（昨年度 82%）

- 2 学校は、ICT機器を効果的に活用し、児童の学習活動に活かしている。（大型モニター、児童用タブレット端末の活用 など）

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）84%】（昨年度 83%）

3 学校は、体力の向上や健康の増進に取り組んでいる。
(縄跳び旬間、体育朝会、持久走、保健指導、食育 など)

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる＋やや当てはまる）92%】（昨年度 90%）

<スクールコミュニティ協議会の評価>

学力向上

- ・個に応じた授業は、先生の負担を考慮すると中々難しいと思います。授業は、予習が大事なため、個に応じた家庭での予習の宿題を積極的に行うことが重要と思います。
- ・学校公開で見た授業は、どれもよい雰囲気の中で進めれていました。
- ・放課後算数教室や学校での階段に九九の表示が貼ってあるなど、工夫をされていると感じました。
- ・いろいろな子供がいる中で、担任の先生にはよくして頂き感謝しております。
- ・ICT を活用し、文書作成能力や提案資料作成能力や調べる力を育むことが重要と思います。
- ・教室の大型モニターが活用されていました。6年生との懇談会では、プレゼン資料を作って発表したのが立派でした。
- ・6年生との懇談会でもタブレット端末を活用して、児童が私たちに目で見えるように話をしてくれて、かなり活用されていると思います。

体力向上

- ・大人になるために、体力向上が重要と認識してほしいです。スポーツや運動を通して、体を動かすことの大切さや楽しさを児童にわかってほしいです。
- ・今後水泳がどうなっていくのか気になります。
- ・持久走をやったり、積極的に外で遊ばせたりして、取り組んでいると思います。
- ・持久走等、体力向上に取り組んでいると思います。

<評価を受けて>

学力向上については、基礎・基本の定着を徹底させていくために、引き続き校内研究のテーマとし、さらに授業改善に取り組んでいく。特に、全国学力学習状況調査での無回答率の高さの改善の一環として、児童が授業に意欲的に取り組めるように工夫をしていく。また、生活全般を通して、すぐにあきらめることなく、粘り強く取り組む経験を積ませていく。朝学習の時間の効果的な進め方についても、校内研究に絡めて、検討していく。

今年度も、1年生を対象に「読みの力の向上」のための取組を行い、1年生全体の読みの力を高めることができたとともに、支援の必要な児童に対して、早期の支援を行うことができた。その結果、巡回相談や発達検査を経て、きこえとことばの教室などにつながることもできた。来年度は、継続して取り組み、読み書きでの躓きを少なくしていくとともに、早期の対応により、いじめや不登校に繋がらないようにしていく。

算数の苦手な児童に対しては、放課後算数教室に参加し、地域の方との1対1の関りを通して、楽しく算数を学習し、算数の理解を深めるとともに算数に対しての苦手意識を軽減させる。今年度は、地域の方の多数の協力により、対象学年を4～6年生に広げることができた。放課後算数教室で、褒められる経験から、授業に前向きになった児童の事例もあった。

家庭でのタブレット端末の活用について進めてきてはいるが、家庭学習をする習慣を

つける事がまだ難しいこともあり、「住吉スタディータイム」と変更し、児童の実態にあった時間設定を試みた。家庭学習の重要性を、年間を通して保護者に伝えるとともに、児童自らが家庭学習に取り組む習慣を付けていく。

以前より、体力テストの平均値が東京都及び府中市の平均値よりも低い種目が多い結果はまだ変わらない。熱中症対策のため6月から9月の期間は、休み時間の外遊びや校庭での体育は行わないため、体育館での体力を高める運動を効果的に行えるように工夫した。また、家庭での運動の機会を確保することを引き続き保護者に呼びかけるなど行い、体力の向上に努めていく。

(2) 安全・安心、心の教育

①生活規律を確立

- ・規範意識、危険回避能力を育てるセーフティ教室の実施（情報モラル、薬物への対応）
- ・テレビ、ゲーム、スマホの使用時間についての指導を実施（利用時間2時間以内）
- ・ヤングケアラー出前講座の開催 5年生

②教師の危険予知及び回避能力の向上

- ・安全対策、週案への記入と日直による見回りの徹底
- ・危険箇所の発見、トラブルの早期発見、担任への支援
- ・ケアラーワークスによるヤングケアラー研修会の実施
- ・実践的な不審者対応訓練を実施

③不登校、いじめに対しては、即時、組織的に対応

- ・サポートルームによる不登校対応、個に応じた支援の推進
- ・いじめ対策委員会を独立して設置し、いじめ防止基本方針を改訂し、いじめ防止年間計画に基づき、児童への未然防止の働きかけや教員に対しての研修を企画・実施し、より早期発見・早期解決の推進を図る。

④防災教育を推進

- ・水害対応（府中市防災課との連携）5年生
- ・避難所開設訓練での簡易トイレの設置、防災釜での炊き出しの見学（スクールコミュニティ協議会との連携）5年生

⑤アレルギー対応を推進

- ・アレルギー対策委員会を開催 4月、9月、1月
- ・対応手順及び緊急時の連絡体制の確認・・・緊急対応訓練の実施4月
- ・要配慮児童の共通理解、共通対応（配食及びアレルギー対応等の実技研修）4月

⑥保護者への働きかけ

- ・保護者向け SNS 講座の開催
- ・いじめ防止基本方針の保護者会での周知

- 1 学校は、防災教育及び防犯、けがの防止・対策など、子供の安心・安全の教育を進めている。（避難訓練、避難所開設訓練、交通安全教室、セーフティ教室など）

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）94%】（昨年度 89%）

- 2 学校は、一人一人の保護者や子供のニーズに応じた教育を進めている。（不登校対応、校内支援、サポートルーム、スクールカウンセラー、きこえとことば・ひばり教室との連携、スマート連絡帳の活用 など）

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）79%】（昨年度 72%）

- 3 学校は、特色ある教育活動を積極的に進めている。
(たてわり班活動、専門家(ゲストティーチャー)の活用、防災教育活動、外国語活動 など)

◎保護者評価

【肯定的評価(よく当てはまる+やや当てはまる) 89%】(昨年度 85%)

- 4 学校は、児童に規範意識や思いやりの心、豊かな心を育てている。
(道徳教育、児童発表、小中・地域との連携 など)

◎保護者評価

【肯定的評価(よく当てはまる+やや当てはまる) 84%】(昨年度 79%)

- 5 学校は、いじめ防止基本方針について保護者にしっかり伝わるように説明し、いじめの未然防止、早期対応に努めている。(保護者会、ホームページ、道徳教育、生活指導)

◎保護者評価

【肯定的評価(よく当てはまる+やや当てはまる) 76%】(今年度新設項目)

<スクールコミュニティ協議会の評価>

- ・日本人は、なかなか海外の方との交流や外国語と触れる機会が少ないため、授業の中で海外の方との触れ合いを取り入れてほしいです。可能であれば、外国語でのコミュニケーションの大切さや楽しさを児童に体験できたらよいです。
- ・出前授業を多く活用して、いろいろなテーマに触れることができます。
- ・1年生の地域の方々との昔遊び、6年生の地域の方々との懇談会等、特色ある教育活動を進めていると思います。あと、地域の文化(お囃子など)交流があれば良いと思います。
- ・今年度、年長さんを招いた小学校体験がありました。過去には運動会で年長さんが出場できる種目もありましたが今はないので、年長さんにとって小学校をみる機会としてよかったと思います。その日に、教え役として頑張った1年生にとっても、年下を思いやる交流の機会になり良い経験ができたと思いました。
- ・学校に行った時、挨拶をよくしていると思います。
- ・アンケート結果から保護者にしっかり伝わっていると思いました。いじめは、先生や保護者が分からない場面で発生している場合があるため、児童の少しの変化を見逃さない観察が大事だと思います。
- ・交通安全について、繰り返し強調されていると感じます。
- ・避難訓練所開設訓練は、保護者も一緒にできれば良いと思います。
- ・先生方が、児童の様子をよく観察し、いじめの未然防止に向けた指導が継続的に行われていると思います。

<評価を受けて>

防災教育として、毎月の避難訓練において、中河原公園への避難を行ったり、児童及び教職員への予告なしで実施したりするなどの工夫を行った。その結果として、実際に非常ベルが鳴った際には、児童は躊躇なく机の下に入り、身を守る行動がとれていた。また、不審者対応訓練も、実際の場面に近づけるために、事前に教員にも時間や不審者の動きは周知せず実施するなど、対応する力を高めた。5年生が避難所開設訓練において、水害対応や心肺蘇生法を体験するほかに、地域の方の協力で簡易トイレや防災窯の体験もでき、防災意識を高めることができた。

いじめへの対応として、全校朝会において、心理学のエビデンスを取り入れ、認知のゆがみといじめについても学んだ。また、いじめの年間計画に基づき、毎月計画的に未然防止、早期発見を推進した。

不登校対応として、サポートルームによる学校内での居場所づくりを進め、まずはサポートルームに通うことを目指す児童、サポートルームから1日数時間の教室での授業

参加を目指す児童、教室での授業を基本としながらもサポートルームで精神的な安定を図る児童など、児童一人一人の状況に応じた対応を引き続き行った。

難聴言語障害学級と特別支援教室の併設校である利点を活かして、校内における特別支援教育の理解を深める研修や講演会を開催した。また、吃音についての児童の理解を深めるために、難聴言語障害学級の担任が、全校朝会で吃音についての説明を行った。

保護者向けに様々な講習会等を開催したが、保護者の参加者が少なかったことが課題であると感じている。どのようにすれば、学校として保護者に伝えたいことが伝わるのかを工夫・検討していく必要があると考える。

(3) 地域との連携

①スクールコミュニティ協議会、地域コーディネーターを活用した教育活動の展開

- ・保護者向け SNS 講座等の実施
- ・地域と連携した補習授業（放課後算数教室）の実施

②地域の防災拠点としての体制を維持、発展

- ・地域協働の避難所開設訓練〔防災研修〕 ・ ・ 10月（5年児童参加）
- ・スクールコミュニティ協議会を活用した地域防災会議（避難所運営委員会）

③学校からの情報発信

- ・学校経営計画・報告、住吉小だより、スマート連絡帳、ホームページによる情報発信
- ・保護者会、スクールコミュニティ協議会等での情報発信

- 1 学校は、教育目標や学校教育の内容を分かりやすく伝えている。
(学校経営計画・報告、住吉小だより、保護者会、ホームページ など)

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）94%】（昨年度 94%）

- 2 学校は、児童の学習活動の様子などが保護者にしっかりと伝わるように情報を発信している。
(住吉小だより、学年だより、保護者会、ホームページ など)

◎保護者評価

【肯定的評価（よく当てはまる+やや当てはまる）89%】（昨年度 87%）

<スクールコミュニティ協議会の評価>

・アンケート結果から、分かりやすく伝えていると思います。ペーパーレス化により、資料を受信した方はデータを認識できますが、他の家族への伝達が、家庭内で十分行って頂くことが課題だと思います。紙の場合は、壁に貼るなどして認識できますが、データの場合は難しいです。

・学校だよりで、分かりやすく説明されていると思います。特に「チーム住吉」について、繰り返し触れられて、意識付けが図られたと感じます。

・学校だよりや保護者会等で、よく伝わっていると思います。

・個々の学習活動の様子を発信することは、なかなか手間がかかると思います。先生の負担を減らして効率的に保護者に伝えるために、全体集会でどれだけ多くの情報を保護者に発信できるのが重要だと思います。

・スマート連絡帳での配信になったので、子供からのお便りの出し忘れはなくなった。スマホでお便りを読むと見逃しや見づらいところもあるので、重要なお便りは、紙での配布もお願いしたい。

<評価を受けて>

地域との連携として、スクールコミュニティ協議会を年間6回開催し、積極的に学校の情報を発信し、地域に開かれた学校を進めた。また、地域コーディネーターの方から、放課後算数教室での地域の方への協力の声掛けを行ったり、地域コーディネーターの方が、5・6年生のSNS講座の学習を行ったりした。また、地域の方の声掛けでの朝の読み聞かせなども進んできた。地域への愛着をもたせるために、地域の方との触れ合いの機会を増やした。1年生との昔遊びや6年生との懇談会などを行った。今後も地域との協働を進め、より地域の方との関りのもてる活動を進めていく。

学校の情報発信として、学校だよりやホームページ等で積極的に発信してきた。保護者会においては、短時間での効率的なコミュニケーションを目指して、保護者会の内容の工夫を行うようにしていく。今後、スマート連絡帳の効果的な活用、ホームページの充実、保護者会での発信を進めていく。

2 次年度の課題と対応策

住吉小の強みを生かして、今年度に引き続き取り組みを進めていく。

(1) 学力向上にかかわって

①個人差に応じた指導の充実

- ・ベーシックドリルタイム（BDT）をより効率的に実施する。
- ・地域と連携して放課後算数教室による補習、やり直し学習の参加児童数を増やす。
- ・朝の読み聞かせを充実し、読書に親しむ機会を増やす。
- ・担任教員の指導の下、学校支援員を活用した個別学習を実施する。
- ・ICTを活用し、一人で繰り返し学習を行えるようにする。
- ・読み書き支援を充実させ、学習のつまずきの早期支援を進める。
- ・校内委員会において、特別支援教育の視点による支援を推進する。

②地域・家庭との連携で進める取組

- ・住吉スタディタイムの家庭での実施を推進する。
- ・ICTの家庭学習での活用を推進する。

③学力向上への対応

- ・学習環境を整備し、授業のユニバーサルデザイン化をさらに進める。
- ・地域人材を活用したICT教育を推進する。
- ・ICTを活用した授業改善をさらに推進する。

(2) 安心・安全教育の推進にかかわって

①いじめ、不登校への対応、特別支援教育の充実

- ・規範意識、思いやりの心を醸成する「あいさつ運動」を実施する。
- ・住吉のいじめ対策基本方針をもとに危機対応研修を実施する。
- ・いじめ対策委員会において、定期的な校内の把握を行うとともに、早期解決に向けての組織的対応を充実させる。
- ・校内支援委員会を中心にした教育相談体制を維持継続する。
- ・サポートルームを活用した支援を行い、不登校の改善及び解消を図る。そのため、非常勤教員を配置し、学校支援員、子どもと家庭の支援員を活用する。
- ・ケースに応じて、教育センター、児童相談所、子育て支援タッチなどの外部機関やSC、SSWなどの人材を積極的に活用し、問題解決に当たる。
- ・情緒障害及び難聴・言語障害担当教員による障害理解教育を推進する。
- ・教員・保護者合同の障害理解研修を開催する。
- ・幼保小連携事業を推進し、円滑な就学を実施する。

③防災教育の推進

- ・不審者、地震、火災、水害などあらゆる危機を想定した避難訓練を工夫し実施する。
- ・地域連携による避難所開設訓練を実施する。10月

(3) 地域・保護者との連携にかかわって

①府中版コミュニティスクールの推進

- ・「未来へつなぐ府中2020レガシー」を推進し、「ふるさと意識」を醸成する。
- ・地域の方によるゲストティーチャーの活用を進めていく。
- ・避難所開設訓練、放課後算数教室の充実を図るとともに、指導体制強化のため

地域人材の確保に努める。

②小中連携一貫教育の推進

・実践交流を通して、中一ギャップの解消、不登校やいじめ対策、情報モラルの浸透、ICT（プログラミング学習を含む）の推進等 教育課題解決のため教師の指導力を高める。